

令和5年度 自己評価・学校関係者評価の報告

学校法人光陵学園 あかね幼稚園

重点 目標	評価項目	評価指標及び評価結果						教師の主な意見	
		基準	取組指標	取組 結果	基準	成果指標	成果 結果		総括 評価
子どもと保育者、共主体に基づく保育実践の展開を考える	幼児が意欲的に遊びを進めるための環境の構成	4	幼児の思いを受けとめ、記録を活用し、保育に活かす	3.2	4	多くの幼児が、「やってみよう」「やってみたい」と意欲的、積極的な行動が見られるようになった	3.4	3.3 B	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの自由な発想を取り入れられるよう活動の予定の中に、余裕を持たせ柔軟な対応を心掛けた ・遊びや活動の中で、何に興味を持っているか観察し必要な物を準備した
		3	幼児の遊びや、興味関心に応じた遊具、用具、素材等を準備する		3	思っていることを発言する幼児が増えた			
		2	1日を振り返り、記録をとる		2	友だちの意見や話を進んで聞く様子が見られるようになった			
		1	幼児と一緒に遊び、よく観察する		1	遊びや活動に対し、消極的な幼児の姿も見られる			
	子ども主体の保育を支える保育者の主体性を進める実践	4	幼児の姿から実践を振り返り、教育指導要領と結びつけて指導計画を見直す	3	4	保育者間で互いの保育について、良い点や課題を伝え合い、同僚性を高め、より良い保育へと繋げている	3.3	3.2 B	
		3	振り返りの記録から、幼児の興味、関心を捉える		3	幼児の思いや意見を聞き、保育に取り入れるようになった			
		2	保育実践を自園の保育理念に当てはめ、結び付けていく		2	園内研修での学びを通して、自分の保育を見直し、振り返りを行うようになった			
		1	園内研修を行う		1	園内研修での学びを記録している			

重点 目 標	評価項目	評価指標及び評価結果						教師の主な意見	
		基 準	取組指標	取組 結果	基 準	成果指標	成 果 結果		総括 評価
幼児と保護者との信頼関係の構築	幼児一人ひとりと信頼関係を築く	4	好きな遊びに取り組んで、自己発揮できるような環境の構成を心掛ける	3.5	4	保育者や友だちに自分の思いを伝え合うようになった	3.4	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 自分から発信できる子とできない子がいるので、それぞれその子に応じた対応を意識した。 興味を持っている遊びができるようにコーナー遊びの充実など環境づくりを工夫した
		3	幼児との関わりを振り返り、幼児の思いに気づいたり記録したりする		3	多くの幼児が安心感の中、園生活を楽しむようになった			
		2	幼児が安心して過ごせるように保育室の環境を整える		2	家での出来事や、経験したことなどを話しかけてくるようになった			
		1	幼児の話に耳を傾ける		1	不安な幼児の姿も見られる			
	保護者との信頼関係を築く	4	園での様子を連絡帳や電話、送迎の際に伝え、心配されている保護者には特に丁寧な対応を心がける	3.7	4	心配や不安を抱えている保護者に対しては、こまめに連絡をとり、保護者に寄り添い早目の対応を心がけた(登園を嫌がる、発育の面など)	3.5	3.6	
		3	園に対する要望、クレームなどは園長に報告、相談し、対処する		3	自分のクラスだけでなく、他のクラスの幼児にも目を向け、声を掛けるようになった			
		2	園で怪我をした時は、保護者に直接状況説明を行う		2	幼児の園での様子を、連絡帳や電話などでわかりやすく伝えるようになった			
		1	幼児が欠席した場合は、家庭に電話を入れ欠席理由を確認し、様子を伺う		1	連絡アプリを導入したことで、二重に確認を行い欠席や預かり保育の伝達ミスが減少した			

重点 目標	評価項目	評価指標及び評価結果						教師の主な意見		
		基準	取組指標	取組 結果	基準	成果指標	成果 結果		総括 評価	
幼児が健康を意識し、安心して生活できる保育の展開	安全点検や教職員、幼児の安全対応力を高める取り組み	4	降車時の人数など、確認作業を確実に行う	3.9	4	車内での幼児の様子、体調などに異常ないか気を配る	3.7	3.8 A	<ul style="list-style-type: none"> 乗降時、車内での安全確認を十分気をつけておこなった 満三歳児の園バス利用が増えたため、座席への誘導など丁寧におこなうようにした。 預かり保育、お迎えの連絡ミスがあった 	
		3	車内での異常がないか、幼児の行動、体調を気かけ見守る		3	クラスの出欠状況、預かり保育の有無などのチェックを行い、連絡もれがないようになった				
		2	職員間の連携を行い、幼児の安全に対する意識を高める		2	通園バスを降りる際の人数確認を確実にを行う				
		1	通園バスの乗降時マニュアルを確認する		1	通園バスの乗降者名、人数を確認して乗車する				
	緊急時の対応を明確にし、安全に行動する実践		4	警察、消防と連携し、研修を受け緊急時の対応を身に着ける	3	4	地震、火災、不審者侵入など状況に応じて指示を理解して行動する	3		3 B
			3	危機管理マニュアルを見直し、教職員間の役割を明確にする		3	合図の言葉の意味がわかり、危険であることを認識し行動できる			
			2	定期的に避難訓練を実施している		2	「お・か・し・も」の意味を理解し、行動と結び付けている			
			1	危機管理マニュアルを見る		1	避難訓練に参加している			

◎総合的な評価結果と今後の課題

- ・「子どもと保育者、共主体に基づく保育の展開」については、今年度の教師研修会研究発表のため、昨年度から一年間取り組んできたことで、子どもの姿をよく観察し、意見を取り入れ、意欲を引き出す保育を行っていること。保育者同士で意見交換や情報を共有することで学びや、自分自身の気づき、課題を見つけることに繋がっていること。など子どもと保育者が共に主体性をもって取り組む姿勢が見られている。職員間での情報共有の面では、同じ学年内では、行われているが、他学年全体での意見交換の場があまりとれていないため、今後の課題とし、園内研修の場を設け、保育を見直し、保育者のスキルアップに繋がりたい。
- ・保護者との信頼関係は、各担任が、登園を嫌がっている、友だちとのトラブルがあったなど、その子に応じて、その都度電話や送迎の際に直接保護者と話し、不安を和らげるよう対応しており、園での様子を知ることによりよい方向へ向かうことができているように思う。今年度は、病院を受診するような大きな怪我をすることがなく過ごすことができたが、顔に擦り傷ができた時の対応が遅れた件が一件あり、反省点が残る。満三歳児が増え、初めての集団生活となる子が多く、保護者の不安も大きく、年々細やかな配慮や、対応が必要になってきていると感じる。保護者の心配や不安な気持ちに寄り添い、接することができるよう、子どもたちの状況を把握し、園全体で対応していくことが大切である。
- ・今年度、警察署に依頼して不審者対応の実践講習会をおこなった。子どもを交えた訓練も行うことと、先日事故があった、喉に物を詰まらせた時の対処法の研修をおこなってほしいと職員から要望が出たため、来年度計画する。

◎学校関係者評価委員による評価及び意見

ここ数年、コロナ禍で縮小して行っていた園行事などが、少しずつ以前のように行われるようになってきており、運動会やコンサートなどを見せってもらう機会がありましたが、職員の保護者や園児たちに対する気配り、配慮など全体を見て動く力が、経験年数に関係なく、若い職員も含め、ついてきていると感じます。

子どもたちの言動からも、自信をもって取り組んでいる様子が伺え、成長を感じる場面がありました。

今後も教職員の学び合い、主体的な取り組みを続けていってください。

学校関係者評価委員